

## 神のみこころを求めて

「それはみこころだと思うよ」、「神様、みこころをお示してください」などなど、クリスチャンはよく「みこころ」という言葉を使います。そして、何よりも「みこころ」を知りたいと願っています。この章では、神様のみこころについてごいっしょに考えてみましょう。

### この課で学ぶこと

1. 神様のみこころとは
  - (1) 神様が定められた計画
  - (2) 神様が望んでおられること
2. 将来に関する神様の計画はわかるか
3. 神様が望んでおられることを知るための原則
  - (1) あなたの思いを神様に委ね、信頼する
  - (2) 聖書の原則に従う
  - (3) 良心に従う
  - (4) 他の人のアドバイスを参考にする
  - (5) 自然や一般的真理も参考にする
4. 神様の望んでおられることの具体的な求め方

●考えてみましょう

あなたは今まで、みこころを求めたことがありますか？

## 1. 神様のみこころとは

神様のみこころとは、神様の思い、意思を意味します。神様のみこころには二つの意味があります。

### (1) 神様が定められた計画

神様のみこころの一つ目の意味は、神様が定められた計画です。これは必ずその通り実現します。エペソ人への手紙 1 章 11 節には、この意味で「みこころ」という言葉が使われています。「またキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。」

### (2) 神様が望んでおられること

神様のみこころのもう一つの意味は、神様が望んでおられることです。神様の期待に応えるのは人間ですから、どの程度実現するかは人間の側で決まります。エペソ人への手紙 5 章 17 節には、この意味で「みこころ」という言葉が使われています。「ですから、愚かにならないで、主のみこころが何であるかを悟りなさい。」

過去に起こったこと、今起こっていることのすべてが神様が望んでおられることと一致するわけではありません。人間の歴史には犯罪も戦争もたくさん起こってきました。「すべてのものを、主はご自分の目的のために造り、悪しき者さえ、わざわいの日のために造られた」(箴言 16:4)とあるとおりです。そういったことは神様が望んでおられることではありませんが、私たちにはわからない理由で罪深い人間

が行うことを神様が許容されたのです。すべてのことは神様の御手の内で行われているのです。「すべては神のみわざであることが分かった。人は日の下で行われるみわざを見極めることはできない。」(伝道者の書 8 : 17)

## 2. 将来に関する神様の計画はわかるか

もしあなたの人生でいつどうなるかがすべてわかっていたら、どうですか。いつどの学校に入学し、どんな仕事をして、いつどんな病気にかかり、いつ死ぬか。すべてわかっていたら安心でしょうか。すべてプログラムされたロボットのようなですね。人生の不安や心配は少なくなるかもしれませんが、次に何が起るかというワクワク感や、自分で責任持って人生を作っていくという感覚を失うでしょう。つまり生きがいがなくなると思います。

そして、神様のすべての計画があらかじめわかっていたら、真剣に聖書を読んだり祈ったりしてみこころを求めないでしょう。私たちは不安や期待を持ちつつ、失敗や痛みを通して信仰が成長していくのではないのでしょうか。

つまり、将来に関する神様の計画は、私たちにすべては知らせないことが神様の思いなのです。神様の計画は、予言や占いではありません。終末に起こる出来事に関して、イエス様はこう言われました。「ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます」(マタイ 24 : 36)。「隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし現されたことは永遠に私たちと私たちの子孫のものであり、それは私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである。」(申命記 29 : 29)

### 3. 神様が望んでおられることを知るための原則

ある人たちは、当てずっぽうに聖書を開いて目に入った聖句が「みこころ」であると思い込みました。でも、これは聖書を占いの道具として使っているのと同じです。どうしたら神様が望んでおられることを正しく知ることができるのでしょうか。

#### (1) あなたの思いを神様に委ね、信頼する

私たちは自分の思いに固執しがちで、確証バイアスが強く働き、神様が望んでおられることがなかなかわからないことがよくあります。ですから、神様が望んでおられることを受け取るためには、まず自分の思いを神様に委ねることが大切です。

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」(詩篇 37:5)

「心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」(箴言 3:5-6)

「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なる



#### コラム

##### 確証バイアスを自覚しよう

私たちは誰もが強力な「確証バイアス」をもっています。確証バイアスとは、自分もっている仮説や先入観に合う情報ばかりを集める傾向のことです。私たちは神様が望んでおられることを求めると言いながら、実際は自分の望んでいることを肯定してくれる聖書箇所を探していることが多いのです。確証バイアスは多くの情報の中から自分に合ったものを効率よく見つけ出すために備えられた人間の性質ですが、間違った方向に流されないように気をつける必要があります。

からだ。一主のことは一 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。」(イザヤ 55 : 8-9)

## (2) 聖書の原則に従う

神様が望んでおられることの原則は、十戒をはじめ聖書にはっきり書かれています。「あなたのみことは 私足のともしび 私の道の光です。」(詩篇 119 : 105)

以下に十戒以外の聖書の大原則をいくつか挙げてみます。これら以外にも、たくさん考えられます。

### ① 神様の栄光を現すためにする

「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい。」(1コリント 10 : 31)

### ② 神と人を愛する

「イエスは答えられた。『第一の戒めはこれです。「聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」第二の戒めはこれです。「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」これらよりも重要な命令は、ほかにありません。』」(マルコ 12 : 29-31)

## (3) 良心に従う

神様が望んでおられることを知るためには、自分の良心に従うことも大切です。良心には個人差がありますが、神のかたちに造られたすべての人には、神様から良心が与えられているからです。

「律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じることを行う場合は、律法を持たなくても、彼ら自身が自分に対する律法なのです。彼らは、律法の命じる行いが自分の心に記されていることを示

しています。彼らの良心も証ししていて、彼らの心の思いは互いに責め合ったり、また弁明し合ったりさえするのです。」(ローマ 2:14-15)

(4) 他の人のアドバイスを参考にする

一つの問題を真剣に考えている当事者は、視野が狭くなりがちです。そのような時には、他の人のアドバイスが役に立ちます。他の人は問題を客観的に見ることができたり、それに同じような問題をすでに経験していることもあるでしょう。

(5) 自然や一般的真理も参考にする

「すべての真理は神の真理」です。つまり聖書に書かれている真理も、自然世界に見られる真理もすべて神様の真理です。(詳しくは Lesson5 をお読みく



## コラム

### 忠告を聞く

私たちは自分の思いにかなったアドバイスを求めがちなので注意する必要があります。たとえば、ソロモンの子レハブアムは父の友人たちの賢明なアドバイスに従わず、自分と同年代の者たちのアドバイスに従って大失敗しました(Ⅱ歴代誌 10 章)。「愚か者には自分の歩みがまっすぐに見える。しかし、知恵のある者は忠告を聞き入れる。」(箴言 12:15)

ださい。)同じ神様がさまざまな真理の表し方をされているだけで、矛盾はありません。神様は全宇宙を創造され、自然法則を与えて保持しています。この自然法則も神様の意思の表れです。さらに、神様のみこころは、私たちの DNA にも書き込まれていると理解できます。ですから、たとえば身体的特徴、特定の病気のかかりやすさ、寿命の長さ等もある程度決まっています。

#### 4. 神様の望んでおられることの具体的な求め方

上に書いた原則を大切にしながら、実際に神様が望んでおられることを知るために、具体的にどのようにしたらよいかをまとめてみましょう。

- ① 人生の全領域で神様の導きに従う祈りをする
- ② 考えられるだけの選択肢を書き出す
- ③ それぞれの選択肢を選んだ場合のプラスとマイナスを書き出す  
自分のやる気が出ること、好むことも大切なプラスの要因です。

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」(ピリピ 2: 13)

- ④ 神様が一番望まれると思われる選択肢を選ぶ
- ⑤ 選択すべき時(タイミング)についてもみこころを求める。

時間が許すなら、あわてて決断しないことです。「勤勉な人の計画は利益をもたらし、すべて慌てる者は損失を招くだけだ。」(箴言 21: 5)

- ⑥ 決断に平安があるかどうか祈る

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」(ピリピ 4: 6-7)

ただし、平安が決断の最終要因ではありません。私たちは自分の願うことなら、平安だと思い込むこともできます。

- ⑦ 神様に従う意志を持つ

私たちは状況が自分の願ったようにならなくても、最終的には神様に従う意志を持つことが大切です。はっきりとはわからなくてもみ

## 6 神のみこころを求めて

こころを求めて生きていく姿勢を、神様は喜んでくださるでしょう。ゲッセマネの園でのイエス様の祈りを模範にしましょう。「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころになりますように。」(ルカ 22:42)

### まとめ

神様のみこころには、「神様が定められた計画」と「神様が望まれていること」の二つの意味があります。私たちは生涯にわたって、神様が望んでおられることを求めながら生きていきます。それがたとえ自分の希望とちがっても「しかし、わたしの願いではなく、みこころになりますように」と祈りつつ、神様を信頼し委ねていきましょう。

Q

話し合ってみましょう

1. あなたは今まで何をもって「みこころ」と判断しましたか？
2. あなたはこれからどのように「みこころ」を求めていきたいですか？

